TADOKU JUNIOR　グリム童話　★★★☆☆ ふつう　503語

The Straw, the Coal, and the Bean

わらと炭とそら豆

Brothers Grimm (tr. Edgar Taylor & Marian Edwardes)（1823年の本）　**原文そのまま**　朗読：Bob Neufeld

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？　おばあさんのなべからにげだした、わらと炭とそら豆。3人はいっしょに旅に出ますが、小さな川をわたろうとして……。そら豆の黒いすじの「なぜ？」がわかるお話です。



In a village dwelt a poor old woman, who had gathered together a dish of beans and wanted to cook them. So she made a fire on her hearth, and that it might burn the quicker, she lighted it with a handful of straw. When she was emptying the beans into the pan, one dropped without her observing it, and lay on the ground beside a straw, and soon afterwards a burning coal from the fire leapt down to the two. Then the straw began and said: 'Dear friends, from whence do you come here?' The coal replied: 'I fortunately sprang out of the fire, and if I had not escaped by sheer force, my death would have been certain,—I should have been burnt to ashes.' The bean said: 'I too have escaped with a whole skin, but if the old woman had got me into the pan, I should have been made into broth without any mercy, like my comrades.' 'And would a better fate have fallen to my

lot?' said the straw. 'The old woman has destroyed all my brethren in fire and smoke; she seized sixty of them at once, and took their lives. I luckily slipped through her fingers.'

'But what are we to do now?' said the coal.

'I think,' answered the bean, 'that as we have so fortunately escaped death, we should keep together like good companions, and lest a new mischance should overtake us here, we should go away together, and repair to a foreign country.'

The proposition pleased the two others, and they set out on their way together. Soon, however, they came to a little brook, and as there was no bridge or foot-plank, they did not know how they were to get over it. The straw hit on a good idea, and said: 'I will lay myself straight across, and then you can walk over on me as on a bridge.' The straw therefore stretched itself from one bank to the other, and the coal, who was of an impetuous disposition, tripped quite boldly on to the newly-built bridge. But when she had reached the middle, and heard the water rushing beneath her, she was after all, afraid, and stood still, and ventured no farther. The straw, however, began to burn, broke in two pieces, and fell into the stream. The coal slipped after her, hissed when she got into the water, and breathed her last. The bean, who had prudently stayed behind on the shore, could not but laugh at the event, was unable to stop, and laughed so heartily that she burst. It would have been all over with her, likewise, if, by good fortune, a tailor who was travelling in search of work, had not sat down to rest by the brook. As he had a compassionate heart he pulled out his needle and thread, and sewed her together. The bean thanked him most prettily, but as the tailor used black thread, all beans since then have a black seam.

ある村に、まずしいおばあさんが住んでいました。おばあさんは豆をお皿一ぱい集めて、それをにようとしていました。そこで、かまどに火をおこしました。そして早く燃えるようにと、わらをひとつかみ使って火をつけました。おばあさんが豆をなべにあけていると、豆が一つぶ、おばあさんの気づかないうちに落ちて、わらのそばの地面にころがりました。するとまもなく、火の中から燃えている炭が一つ、ぴょんととびだして、二人のところへやってきました。そこでわらが話しはじめました。「みなさん、どこからここへいらしたんですか？」炭が答えました。「わたしは運よく火の中からとびだしたんです。力いっぱいにげださなかったら、きっと死んでいたでしょう。燃えて灰になっていたはずです。」豆が言いました。「わたしも、けが一つなくにげてきました。でも、もしおばあさんになべに入れられていたら、仲間と同じように、ようしゃなくスープにされていたでしょう。」「わたしだって、もっとましな運命だったと思いますか？」とわらは言いました。「おばあさんは、わたしの兄弟たちをみんな火とけむりの中でなくしてしまいました。いっぺんに60本もつかんで、命をうばったんです。わたしは運よく、おばあさんの指のあいだからすりぬけたんですよ。」

「でも、これからどうしましょう？」と炭が言いました。

「わたしが思うに」と豆が答えました。「せっかく運よく命びろいしたのだから、よい仲間としていっしょにいましょう。そして、ここでまた悪いことが起こらないように、いっしょに出かけて、よその国へ行きましょう。」

ほかの二人もこの考えが気に入って、みんなでいっしょに出発しました。けれどもまもなく、小さな川にやってきました。橋も、わたり板もなかったので、どうやってわたればいいのかわかりませんでした。わらがいいことを思いついて言いました。「わたしがまっすぐ横になってわたしますから、橋のようにしてわたしの上を歩いてわたってください。」そこでわらは岸から岸へと体をのばしました。すると、せっかちな性格の炭が、できたばかりの橋の上を、とても大たんにとことこわたりはじめました。ところが、まん中まで来て、足の下でザーザーと水が流れる音を聞くと、炭はやっぱりこわくなって立ち止まり、それ以上進めなくなりました。そのうちに、わらが燃えはじめて、二つに折れ、川の中へ落ちてしまいました。炭もわらのあとから川へすべり落ち、水に入るとジュッと音を立てて、そのまま消えてしまいました。豆は用心して岸に残っていましたが、このできごとを見て笑わずにはいられませんでした。笑いが止まらなくなり、あまりに大笑いしたので、とうとう体がパチンとはじけてしまいました。ちょうど運よく、仕事をさがして旅をしている仕立て屋が、川のそばで休んでいなかったら、豆も同じように、おしまいになっていたことでしょう。仕立て屋は思いやりのある人だったので、はりと糸を取り出して、豆をぬい合わせてやりました。豆はとてもていねいにお礼を言いました。けれども仕立て屋が黒い糸を使ったので、それからというもの、そら豆にはみんな黒いぬい目があるのです。

たんご と クイズ わらと炭とそら豆

beans 豆	**straw** わら	**coal** 炭
pan なべ	**bridge** 橋	**tailor** 仕立て屋
needle and thread はりと糸		

Q1 わらは、川をわたるためにどうした？

① 自分が橋になった　② 船をつくった　③ 泳いでわたった

Q2 豆の体がはじけてしまったのは、どうして？

① 火にあたったから　② 川に落ちたから　③ 大笑いしすぎたから

Q3 そら豆に黒いぬい目があるのは、どうして？

① 炭がさわったから　② 仕立て屋が黒い糸でぬったから　③ おばあさんがぬったから

こたえ

Q1 ① わらは「わたしがまっすぐ横になるから、橋のようにわたって」と言って、岸から岸へ体をのばしました。

Q2 ③ わらと炭が川に落ちたのを見て、豆は笑いが止まらなくなり、とうとう体がはじけてしまいました。

Q3 ② 仕立て屋が黒い糸で豆をぬい合わせたので、それからそら豆にはみんな黒いぬい目があるのです。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #2591（Brothers Grimm (tr. Edgar Taylor & Marian Edwardes)、1823年）。パブリックドメイン。

挿絵：この本には挿絵がないため、場面をイメージして AI（Codex）で描いた絵です。

朗読（Web版）：Bob Neufeld（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）

和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは 3 重チェック。人の目でも順次確認しています。